

# 食べて、飲んで見つける地元の魅力

近年、全国各地で盛り上がる「まちバル」イベント。津市でも11月11日と18日に「津うのドまんなかバル」が開催されます。スタートから今年で4年。さまざまなアイデアを積極的に取り込み、年齢を問わず楽しめるこのまちならではのイベントへと進化してきました。

## バル文化を身近に 大門地区の62店舗が参加

「津うのドまんなかバル」は、津市の中心市街地である大門地区を会場とし、毎年多くの人が訪れるイベントです。バルとは、スペインにある居酒屋やバーのこと。「スペインでは、お酒と小皿料理を楽しむ、気軽に次の店へとはしご酒を楽しむ」「バル文化」があるんです」と実行委員会の実行委員長と事務局長を務める増田芳則さんは話します。

重県地方自治研究センターの研究者として、地域活性化の方法を模索していた増田さんは、尾鷲市で開催されたまちバルイベント「第2回尾鷲旬のコツまみバル」に大きな感銘を受けました。「まちバルとは、地域の飲食店を飲み歩いたり、食べ歩いたりするイベントです。地域の実店舗に人を呼び込むので、グルメイベントのような大会場の確保も不要。チケットの売上を開催予算にできるため、継続的な補助金も必要ありません。それに尾鷲のまちは小さいけれど一生懸命に営業している店がたくさんあり、大門とそっくりだと思っただけです」と振り返ります。



実行委員長兼事務局長  
増田芳則さん  
「地元で楽しみ、地元が潤う仕組みをつくりたい」と意気込みます

津市の市役所や観光協会、商工会議所の賛同を得るとともに、大門地区の飲食店「軒ずつ」に趣旨を説明。2014年11月、62店舗の参加協力を得て、社会実験として1回目を開催。大成功を収めました。

## 継続していける内容を模索し 独自のアイデアで盛り上げる

まちバルが津で初開催されたインパクトが大きかったため、開催を熱望する声に押されて恒例化。イベント内容も進化を続けています。「バルの盛り上がりを見た地元のジャズミュージシャンの方が、『ぜひ自分たちも音楽で喜んでもらいたい』と声をかけてくれたんです」と増田さん。2回目からは、ジャズイベント「津うのドまんなかジャズ」を同時開催。市内をはじめとする各地から集まっ

1店舗に腰を据えるのではなく、いろいろな店を巡り歩いて食事や酒を楽しむ。それがまちバルの一番の醍醐味



一部の会場を除き、ジャズライブが無料で楽しめます



店の人とおしゃべりも楽しみ、地域が一体となって盛り上がります。子ども連れでも楽しめるバーもあります



エントリーチケットは、友人などと一緒に購入し、チケットのシェアが可能です

### information

## 津うのドまんなかバル

11/11(土)・18(土) ※時間は店舗により異なります

- 会場／津市大門エリア参加店&まんなか広場
- 主催／津うのドまんなかバル実行委員会
- 公式サイト／<https://zdobar.jimdo.com/>
- 問い合わせ／TEL090-7955-6787 (17:30以降)

### パンフレットとエントリーチケット取り扱い場所

- エントリーチケット／1冊6枚つづり前売500円／当日600円(パンフレットは無料)
- 津市観光協会(JR・近鉄津駅前ビルアスト津内)・別所書店(修成店、津駅店、イオン津店)
- 本の王国(津文化センター前店)・津都ホテル(三重会館前)・街の駅だいまん・津うのドまんなかバル各参加店

た、プロを含む約100人のジャズミュージシャンが各所で演奏を繰り広げ、イベントの盛り上がり華を添えています。

実行委員会がエントリーチケット制を発明し、導入に踏み切ったのも2回目から。参加者は1冊6枚つづりのエントリーチケットを購入し、参加店でバルメニューを注文する際、チケット1枚を現金とともに渡します。「チケット代をイベントの運営資金に充てています。通常の金券方式ですと、イベント後に主催者側と参加店のあいだで精算をする必要があり、

## まち全体の魅力を伝え 身近に訪れられる場所へ

現在は参加店および市民のそれぞれの有志と観光協会によって実行委員会を運営。今年の開催は11月11日と18日。ジャズイベントは10日の前

作業量や手間が増えてしまっただけです。イベントを盛り上げ、長く継続していくためには、参加店の事務負担を減らし、気軽に参加できる仕組みをつくるのが重要。従来のセオリーに固執せず、新しいアイデアを柔軟に取り入れる姿勢が続いています。

夜祭と11日に開催され、今年は58バンド290人がパーカやカフエ、ライブハウス、街頭などで素敵な演奏を響かせます。そして18日は、新企画「津うのドまんなかブックテラス」が登場。一箱古本市や雑貨市、椅子や本棚のワークショップ、ボードゲーム会(※)などが開催され、家族で楽しめる催しがそろいます。「今年も、62の参加店すべてでワンコインメニューを実施します。うなぎの名店や老舗の洋食店、ホテルのレストランまで、自慢の料理を気軽に味わえます」と呼びかける増田さん。スイーツやテ

イクアウトメニューもあるので、親子でもお店巡りを楽しめます。

今後の目標は、開催を続けながら地域のコミュニケーションを育み、大門地区全体を活性化すること。「イベントを通して、私たちの地元にはこんなに良い店がたくさんあるのを知ってもらいたい。イベントの日だけ盛り上がるのではなく、普段から商店街でハシゴ酒を楽しむなど、地域の中で楽しい時間を過ごす習慣が根づいていったらうれしいです」と期待を込めます。

今年は公式パンフレットの地図をま

ち歩き仕様にするなど、「大門探検」をテーマの1つに据える「津うのドまんなかバル」。パンフレットやエントリーチケットは、津市観光協会、別所書店、本の王国、津都ホテルなどで入手が可能です。おいしい食べ物や酒、音楽を満喫しながら、地域の魅力を再発見してみたいいかがでしょうか。



実行委員会の皆さん。参加店の店主や市民のボランティアなど、12人で運営しています